

2020(令和2)年12月15日 報道発表資料
[本リリース発信元] ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)



イラストレーション：カナイフユキ

松田正隆が10年ぶりに京都で新作を執筆・上演！
出身地・長崎をめぐる物語を、劇場レパトリー作品として創作

ロームシアター京都開館5周年記念事業

<レパトリーの創造>

松田正隆 作・演出「シーサイドタウン」

2021年1月27日(水)～1月31日(日)

ロームシアター京都 ノースホール

[本リリースに関するお問合せ先]

ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 広報担当:松本、長野
電話:075-771-6051(9:00～17:00) FAX:075-746-3366 E-mail:press@rohmtheatrekkyoto.jp

■企画趣旨

時代を超えて末永く上演される劇場のレパートリー演目を製作することを念頭に、2017年から継続して取り組むプロジェクト「レパートリーの創造」。第四弾は、長らく京都を拠点に活動を続けてきた劇作家・演出家の松田正隆に、ロームシアター京都の新たなレパートリー作品を委嘱します。

自身が代表を務めるマレビトの会では、新しい演劇のつくり方を探求し、近年では実験性の強い作品を発表してきた松田が、今回は**自身の出身地である長崎を題材に、満を持して新作戯曲を書き下ろします**。さらに、**京都での自身による演出作品の上演は10年ぶり**となります。さらに松田は後進育成、若い世代との共同作業にも積極的に取り組んでおり、本作品に臨むにあたって、出演者の公募／オーディションを通して新たな才能との出会いを生み出します。

また、演出家・映像作家の村川拓也と米倉伸により創作のプロセスの記録を進めています。後日それらを公開し、作品が出来ていく過程も共有することで、劇場で作品を創ることの意味や魅力をお伝えしていく予定です。

<レパートリーの創造について>

ロームシアター京都が、2017年度から取り組んでいるプログラムで、劇場のレパートリー演目として時代を超えて末永く上演されることを念頭に、公立劇場が主体的に作品製作に取り組む事業です。また、作品創造のプロセスを通じて、俳優、ドラマトウルク、制作者等の専門家人材の育成や観客育成のための関連プログラムを企画し、ロームシアター京都でのレパートリーの創造が、各地域における劇場文化の創造へとつながることを目指します。

■作品について

ある海辺の町に 住まう人たち

【あらすじ】

この国の西の果て、海辺の町。一軒の空き家に一人の男（シンジ）が住みはじめる。シンジは東京で職をなくし行き場を失い、故郷に帰ってきた。荒廃していく地方の町では凡庸なるファシズムが横行し、シンジは戸惑いながらもその流れに馴染んでゆく。相変わらず地縁・血縁のしがらみも絡みつく。日々の生活の中で「何かの兆し」は常に現れ、起こるべくして起こった事件が報告される。

■プロフィール

松田 正隆 (まつだ まさたか)

劇作家・演出家・マレビトの会代表

1962年、長崎県生まれ。96年『海と日傘』で岸田國士戯曲賞、97年『月の岬』で読売演劇大賞作品賞、99年『夏の砂の上』で読売文学賞を受賞。2003年「マレビトの会」を結成。主な作品にフェスティバル・トーキョー2018参加作品『福島を上演する』など。2012年より立教大学現代心理学部映像身体学科教授。ロームシアター京都「劇場の学校プロジェクト」では二年続けて講師を務めている。



【出演者】

生実 慧 (いくざね さとし)

1986年、石川県生まれ。

近年、出演・参加した作品に、マレビトの会「福島を上演する」(2016-2018)、ワワフラミンゴ「くも行き」(2019)などがある。

鈴鹿 通儀 (すずか みちよし)

中学高校時代に日本ハムファイターズの私設応援団として全国の球場を飛び回った結果、大学受験に失敗。2年間に渡るプー太郎生活を過ごしたのち日本大学芸術学部演劇学科に進学。卒業後活動を本格化し、中野成樹+フランケンズ、ままごと、劇団子供鉅人、ピンク・リバティ、財団、江本純子など舞台を中心に出演。目下の趣味はバックギャモン。

大門 果央 (だいもん かお)

京都府出身、大学生、舞台初出演。

演技をすることに興味があり、応募しました。

演技未経験ですが、頑張ります。

田辺 泰信 (たなべ やすのぶ)

1974年生まれ。1997年から2001年まで劇団維新派に所属。国内及び海外公演に参加した後、心身の探究のため作業療法士免許を取得する。フリーで活動を再開した近年は、濱口竜介監督「ハッピーアワー」いまおかしんじ監督「れいこいるか」NHK土曜ドラマ「心の傷を癒すということ」などの出演がある。今後は野原位監督の新作が控えている。

深澤 しほ (ふかさわ しほ)

2018年より額田大志主宰の〈ヌトミック〉に所属し、以降のすべての作品に出演。俳優として、ゆうめい『《》』、玉田企画『かえるバード』、ニカサン『うまく落ちる練習』、スペースノットブランク『氷と冬』など、参加作品は多ジャンルに渡る。心理学実験の現場(中村航洋ほか『形態測定学的アプローチによる表情表出の時空間的パターン解析』)で俳優の視点からアドバイザーとしても活動している。

横田 僚平 (よこた りょうへい)

俳優。1987年生まれ。横浜を中心に活動するオフィスマウンテンのメンバー。2016年に岸田國士戯曲賞最終候補作品に選ばれた『ドッグマンノーライフ』より継続的に参加。これまでの演劇出演は新聞家『屋上庭園』、ダダルズ『顔が出る』、円盤に乗る派『おはようクラブ』、サンプル『自慢の息子』、グループ野原『愛するとき死ぬとき』など。



[左から：鈴鹿、大門、深澤、横田、田辺、生実]

【スタッフ】

照明：藤原康弘 衣装：清川敦子 (atm) 演出助手：福井裕孝

舞台監督：川村剛史 (ロームシアター京都)

記録：村川拓也、米倉伸

イラストレーション：カナイフユキ

宣伝美術：南琢也

撮影：中谷利明

制作：齋藤啓・宮崎麻子 (以上、ロームシアター京都)

福井 裕孝 (ふくい ひろたか)

1996年生まれ、京都府出身。演出家。人・もの・空間の関係を演劇的な技法を用いて再編し、その場の全体的な状況を異なる複数のスケールとパースペクティブから捉え直す。近年は『モデルルーム』(2018)、『インテリア』(2018,2020)、『マルチルーム』(2019)など、部屋という空間単位から作品を製作し、上演と屋内環境との再接続を試みる。公益財団法人クマ財団クリエイター奨学金第二期生。

■公演情報

公演名：ロームシアター京都 開館5周年記念事業

<レパートリーの創造> 松田正隆作・演出「シーサイドタウン」

日時：2021年1月27日(水)～31日(日)

	27日(水)	28日(木)	29日(金)	30日(土)	31日(日)
14:00 開演				●※☆	●※☆
19:00 開演				●	
19:30 開演	●	●	●		

※の回は終演後にアフタートークを行います。

☆の回は託児サービスがあります。詳細はロームシアター京都までお問合せください。

会場：ロームシアター京都 ノースホール

上演時間：1時間45分(予定)

チケット(発売中)：

全席自由

一般3,500円、ユース(25歳以下)2,000円、高校生以下1,000円

※推奨年齢中学生以上。未就学児入場不可。

※ユース(25歳以下)、高校生以下のチケットの方は、公演当日に年齢が確認できる証明書をお持ちください。

【チケット取扱】

■オンラインチケット 24時間購入可 ※要事前登録(無料)

<https://www.e-get.jp/kyoto/pt/>

■ロームシアター京都 チケットカウンター

TEL.075-746-3201 (窓口・電話とも10:00～19:00/年中無休 ※臨時休館日を除く)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため短縮営業する場合あり

■京都コンサートホール チケットカウンター TEL.075-711-3231

(窓口・電話とも10:00～17:00/第1・3月曜日休館 ※休日の場合は翌日)

■チケットぴあ TEL.0570-02-9999 Pコード:503-559

■イープラス <https://eplus.jp/>

お問合せ：ロームシアター京都チケットカウンター TEL.075-746-3201

企画製作：ロームシアター京都

主催：京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

■ロームシアター京都開館5周年記念事業について

2021年1月から3月までの期間に開催する、ロームシアター京都の自主事業を「開館5周年記念事業」として展開します。

ロームシアター京都 開館5周年記念事業

対象事業 [1月10日(日)～3月28日(日)]

- ① シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 Vol.4 雅楽～現代舞踊との出会い
- ② 京都市交響楽団×石橋義正 パフォーマティブコンサート「火の鳥」
- ③ 第354回市民寄席
- ④ レポートリーの創造 松田正隆作・演出『シーサイドタウン』
- ⑤ KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2021 SPRING
- ⑥ シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 Vol.3 人形浄瑠璃 文楽
- ⑦ ハンブルク・バレエ団 映像上映会(公演は中止になりました)

ロームシアター京都 開館5周年記念誌

ロームシアター京都の開館5周年を記念し、撮りおろし建築グラビアや過去公演の記録写真、参加アーティストからのメッセージなど盛りだくさんのコンテンツを濃縮した、永久保存版の書籍を発行します。

発行 | 2021年1月10日

仕様 | ハードカバー208ページ

料金 | 2,500円+消費税

ロームシアター京都総合案内、京都岡崎 蔦屋書店等で販売予定

ロームシアター京都 開館5周年記念ロゴ



SINCE 1960/2016

2021年1月10日に迎えるロームシアター京都の開館5周年は、京都会館のオープンから60周年の期間にもあたります。

リニューアル間もない新しさと同時に歴史も感じられるロームシアター京都という場を体現するため、「5」の数字の背景に「60」を潜ませロゴマークとしてまとめています。